

| | | | |
|--|-------------------------------------|--|--|
| ナンバリングコード B2KOR-abxG-10-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 046101) 韓国語 I (1) Korean I Korean I | 科目区分 外国語科目 | 時間割 2023年度 前期月3, 木2 | 対象年次 1～ |
| | 水準 学士: 基礎科目 分野 韓国語 | 提供部局 : 大教センター DPコード : abx | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし |
| | 授業形態 講義 | 単位数 2 | |
| 担当教員名 宮島 美花, 平 水晶 | 関連授業科目 | | |
| | 履修推奨科目 | | |
| 学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間) | | | |
| 授業の概要 韓国語 I の各クラスはいずれも同内容である。はじめて韓国語を学ぶ人を対象とする。文字・発音の習得に力点をおきながら、平易な構文でかつ実際の日常で使用される頻度の高い表現を通じて、基礎的な文法事項を学んでいく。 | | | |
| 授業の目的 基本的な構文による平易な内容について韓国語の基礎能力を養成する。韓国語は、語順が日本語と似ている上に、共通する漢字語も多いので、日本語話者には入りやすい外国語である。しかしながら、外国語である以上、手を抜かずに努力をしなければならないことは他の外国語の場合と同じである。そうした地道な努力を積み重ねた受講生が、学んだ表現を用いて、あるいは応用させることによって、少しずつ簡単な内容の意味疎通ができるようにする。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| はじめて韓国語を学ぶ人が、1) 韓国語と固有の文字 (ハングル) の基本的特徴を理解する。ハングルを正確に書け、発音できるようになる。2) 文法的には最も基本の文法 (「～は」「～が」といった助詞や、「～です/ます」丁寧語尾) を理解し、基本的な単語を覚え、簡単な文章で表現することができる。終了時にハングル能力検定 5 級程度の能力を獲得できる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」および「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 宿題、授業中に行う小テスト、中間試験、期末試験を総合し決定する。香川大学の全学的な評価基準に基づき、全体の3分の2以上の出席がない場合は不可となり、中間テストと期末テストを主とする総合評価で100点満点のうち60点以上で合格となる。 | | | |
| 成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| 【授業計画】 テキストの各課を順番に学び進め、概ね中ごろで中間テストを行い、最後の授業までにテキストの最終課 (第12課) までの内容を学び終える。 クラスの大半の学生の理解度にあわせて進度は調節されるが、標準的な進度の一例は以下のとおりである。 第1回 オリエンテーション、テキスト第1課 文字と発音 (1) 単母音 第2回 第1課 文字と発音 (2) 半母音 第3回 第2課 文字と発音 (3) 初声 (平音) 第4回 第2課 文字と発音 (4) 二重母音 第5回 第3課 文字と発音 (5) 初声 (激音)、初声 (濃音) 第6回 第3課 文字と発音 (6) 終声 第7回 第4課 「～は」「名詞+です (ハムニダ体)」 第8回 第4課 第4課本文解説・音読練習 第9回 第5課 「～が」「名詞+です (ヘヨ体)」 第10回 第5課 第5課本文解説・音読練習 第11回 第6課 漢数詞、「～(場所)に」 第12回 第6課 「あります/ないです」、第6課本文解説・音読練習 第13回 第7課 「～を」「～も」「～です/ます (ヘヨ体)」作文 | | | |

| | | |
|------|-------|---------------------------------|
| 第14回 | 第7課 | 第7課本文解説・音読練習 |
| 第15回 | 中間テスト | |
| 第16回 | 第8課 | 縮約パターン1～4の「～です/ます（ヘヨ体）」 |
| 第17回 | 第8課 | 「～（場所）で」「～（人）に」、中間テスト返却・解説 |
| 第18回 | 第8課 | 第8課本文解説・音読 |
| 第19回 | 第9課 | 縮約パターン5～9の「～です/ます（ヘヨ体）」 |
| 第20回 | 第9課 | 手段・方法の「～で」、「～（場所）から～（場所）へ」、固有数詞 |
| 第21回 | 第9課 | 第9課本文解説・音読 |
| 第22回 | 第10課 | 丁寧形のハダ変則 |
| 第23回 | 第10課 | 「～しに」「～（時間）から～（時間）まで」 |
| 第24回 | 第10課 | 第10課本文解説・音読 |
| 第25回 | 第11課 | 過去形 |
| 第26回 | 第11課 | ウ変則活用、否定形 |
| 第27回 | 第11課 | 第11課本文解説・音読練習 |
| 第28回 | 第12課 | 尊敬形 |
| 第29回 | 第12課 | 「～するつもりです」、「～したい」 |
| 第30回 | 第12課 | 第12課本文解説・音読練習 |

【授業及び学習の方法】

この科目は基本的に対面授業を行う。一部の授業回では遠隔授業を行う。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性がある。

テキストを使用して授業を行い、ハングルを正しく書け、発音できるようになると同時に基本的な単語を覚える。授業時間内だけで初めて学ぶ新しい文字とその発音を覚えることはできないので、履修生各自が前回内容を復習した上で毎回の授業の臨むことが必須となる。常に口を動かし（発音・発話練習）、手を動かして（正しいスペルで書き、正しく活用させる練習）学んでもらうので、能動的な姿勢で授業に臨むことが求められる。

授業中に中間テストを含むテストを行い、クラスの理解度を確認しながら、進歩を進める。当然ながらクラスの大半が理解できていることを確認して進歩を進め、クラスの大半にとって適度な速度で進歩を進める（予復習を怠るごく一部の学生にあわせるのではない）。テストの前は時間をとってテスト準備をすること。

【自学自習のアドバイス】

テストで存在しないハングル（自分で勝手に作ったハングルらしきもの）を書く学生が少なくない。初めて学ぶ文字の習得を甘く考え、授業時間以外に復習の時間を持つことを怠れば、この授業をパスすることは困難である。このことを理解している人だけが履修すること。また「韓国語は日本語に似ていて簡単そう」という思い込みを捨て、初めて学ぶ外国語として真剣に取り組まないと入口の段階で挫折することになる。基礎段階からしっかり取り組むこと。

教科書・参考書等

テキストは全クラス共通の指定テキストを使用する。今年は、李潤玉ほか『韓国語の世界へ—入門編—』（朝日出版社）を使用する。大学生協で購入すること。この授業ではまだ辞書を使用しない。

オフィスアワー 各担当教員が授業時間前後の休み時間に対応する。担当教員が非常勤講師の場合、10分休みでは対応できないような長い相談は、前の週に申し出て、授業前後の時間の都合をうかがい、約束しておくことが望ましい。専任教員（宮島のみ）の場合は研究室（南7号館3階から南4号館3階に移転予定）で対応し、水4をオフィスアワーとするが、会議で不在となる場合も多いので、事前に約束すること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

香川大学全体の規定のとおり、欠席が全体の3分の1に達した場合（出席が3分の2以下の場合）、その時点で不合格決定となる。

| | | | |
|--|-------------------------------------|--|--|
| ナンバリングコード B2KOR-abxG-10-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 046102) 韓国語 I (2) Korean I Korean I | 科目区分 外国語科目 | 時間割 2023年度 前期月3, 木2 | 対象年次 1～ |
| | 水準 学士: 基礎科目 分野 韓国語 | 提供部局 : 大教センター DPコード : abx | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし |
| | 授業形態 講義 | 単位数 2 | |
| 担当教員名 谷崎 美津子 | 関連授業科目 | | |
| | 履修推奨科目 | | |
| 学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間) | | | |
| 授業の概要 韓国語 I の各クラスはいずれも同内容である。はじめて韓国語を学ぶ人を対象とする。文字・発音の習得に力点をおきながら、平易な構文でかつ実際の日常で使用される頻度の高い表現を通じて、基礎的な文法事項を学んでいく。 | | | |
| 授業の目的 基本的な構文による平易な内容について韓国語の基礎能力を養成する。韓国語は、語順が日本語と似ている上に、共通する漢字語も多いので、日本語話者には入りやすい外国語である。しかしながら、外国語である以上、手を抜かずに努力をしなければならないことは他の外国語の場合と同じである。そうした地道な努力を積み重ねた受講生が、学んだ表現を用いて、あるいは応用させることによって、少しずつ簡単な内容の意思疎通ができるようにする。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| はじめて韓国語を学ぶ人が、1) 韓国語と固有の文字 (ハングル) の基本的特徴を理解する。ハングルを正確に書け、発音できるようになる。2) 文法的には最も基本の文法 (「～は」「～が」といった助詞や、「～です/ます」丁寧語尾) を理解し、基本的な単語を覚え、簡単な文章で表現することができる。終了時にハングル能力検定 5 級程度の能力を獲得できる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」および「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 宿題、授業中に行う小テスト、中間試験、期末試験を総合し決定する。香川大学の全学的な評価基準に基づき、全体の3分の2以上の出席がない場合は不可となり、中間テストと期末テストを主とする総合評価で100点満点のうち60点以上で合格となる。 | | | |
| 成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| 【授業計画】 テキストの各課を順番に学び進め、概ね中ごろで中間テストを行い、最後の授業までにテキストの最終課 (第12課) までの内容を学び終える。 クラスの大半の学生の理解度にあわせて進度は調節されるが、標準的な進度の一例は以下のとおりである。 第1回 オリエンテーション、テキスト第1課 文字と発音 (1) 単母音 第2回 第1課 文字と発音 (2) 半母音 第3回 第2課 文字と発音 (3) 初声 (平音) 第4回 第2課 文字と発音 (4) 二重母音 第5回 第3課 文字と発音 (5) 初声 (激音)、初声 (濃音) 第6回 第3課 文字と発音 (6) 終声 第7回 第4課 「～は」「名詞+です (ハムニダ体)」 第8回 第4課 第4課本文解説・音読練習 第9回 第5課 「～が」「名詞+です (ヘヨ体)」 第10回 第5課 第5課本文解説・音読練習 第11回 第6課 漢数詞、「～(場所)に」 第12回 第6課 「あります/ないです」、第6課本文解説・音読練習 第13回 第7課 「～を」「～も」「～です/ます (ヘヨ体)」作文 | | | |

| | | |
|------|-------|---------------------------------|
| 第14回 | 第7課 | 第7課本文解説・音読練習 |
| 第15回 | 中間テスト | |
| 第16回 | 第8課 | 縮約パターン1～4の「～です/ます（ヘヨ体）」 |
| 第17回 | 第8課 | 「～（場所）で」「～（人）に」、中間テスト返却・解説 |
| 第18回 | 第8課 | 第8課本文解説・音読 |
| 第19回 | 第9課 | 縮約パターン5～9の「～です/ます（ヘヨ体）」 |
| 第20回 | 第9課 | 手段・方法の「～で」、「～（場所）から～（場所）へ」、固有数詞 |
| 第21回 | 第9課 | 第9課本文解説・音読 |
| 第22回 | 第10課 | 丁寧形のハダ変則 |
| 第23回 | 第10課 | 「～しに」「～（時間）から～（時間）まで」 |
| 第24回 | 第10課 | 第10課本文解説・音読 |
| 第25回 | 第11課 | 過去形 |
| 第26回 | 第11課 | ウ変則活用、否定形 |
| 第27回 | 第11課 | 第11課本文解説・音読練習 |
| 第28回 | 第12課 | 尊敬形 |
| 第29回 | 第12課 | 「～するつもりです」、「～したい」 |
| 第30回 | 第12課 | 第12課本文解説・音読練習 |

【授業及び学習の方法】

この科目は基本的に対面授業を行う。一部の授業回では遠隔授業を行う。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性がある。

テキストを使用して授業を行い、ハングルを正しく書け、発音できるようになると同時に基本的な単語を覚える。授業時間内だけで初めて学ぶ新しい文字とその発音を覚えることはできないので、履修生各自が前回内容を復習した上で毎回の授業の臨むことが必須となる。常に口を動かし（発音・発話練習）、手を動かして（正しいスペルで書き、正しく活用させる練習）学んでもらうので、能動的な姿勢で授業に臨むことが求められる。

授業中に中間テストを含むテストを行い、クラスの理解度を確認しながら、進歩を進める。当然ながらクラスの大半が理解できていることを確認して進歩を進め、クラスの大半にとって適度な速度で進歩を進める（予復習を怠るごく一部の学生にあわせるのではない）。テストの前は時間をとってテスト準備をすること。

【自学自習のアドバイス】

テストで存在しないハングル（自分で勝手に作ったハングルらしきもの）を書く学生が少なくない。初めて学ぶ文字の習得を甘く考え、授業時間以外に復習の時間を持つことを怠れば、この授業をパスすることは困難である。このことを理解している人だけが履修すること。また「韓国語は日本語に似ていて簡単そう」という思い込みを捨て、初めて学ぶ外国語として真剣に取り組まないと入口の段階で挫折することになる。基礎段階からしっかり取り組むこと。

教科書・参考書等

テキストは全クラス共通の指定テキストを使用する。今年は、李潤玉ほか『韓国語の世界へ—入門編—』（朝日出版社）を使用する。大学生協で購入すること。この授業ではまだ辞書を使用しない。

オフィスアワー 各担当教員が授業時間前後の休み時間に対応する。担当教員が非常勤講師の場合、10分休みでは対応できないような長い相談は、前の週に申し出て、授業前後の時間の都合をうかがい、約束しておくことが望ましい。専任教員（宮島のみ）の場合は研究室（南7号館3階から南4号館3階に移転予定）で対応し、水4をオフィスアワーとするが、会議で不在となる場合も多いので、事前に約束すること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

香川大学全体の規定のとおり、欠席が全体の3分の1に達した場合（出席が3分の2以下の場合）、その時点で不合格決定となる。

| | | | |
|--|-------------------------------------|--|--|
| ナンバリングコード B2KOR-abxG-10-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 046103) 韓国語 I (3) Korean I Korean I | 科目区分 外国語科目 | 時間割 2023年度 前期月3, 木2 | 対象年次 1～ |
| | 水準 学士: 基礎科目 分野 韓国語 | 提供部局 : 大教センター DPコード : abx | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし |
| | 授業形態 講義 | 単位数 2 | |
| 担当教員名 宮島 美花, 崔 栄殊 | 関連授業科目 | | |
| | 履修推奨科目 | | |
| 学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間) | | | |
| 授業の概要 韓国語 I の各クラスはいずれも同内容である。はじめて韓国語を学ぶ人を対象とする。文字・発音の習得に力点をおきながら、平易な構文でかつ実際の日常で使用される頻度の高い表現を通じて、基礎的な文法事項を学んでいく。 | | | |
| 授業の目的 基本的な構文による平易な内容について韓国語の基礎能力を養成する。韓国語は、語順が日本語と似ている上に、共通する漢字語も多いので、日本語話者には入りやすい外国語である。しかしながら、外国語である以上、手を抜かずに努力をしなければならないことは他の外国語の場合と同じである。そうした地道な努力を積み重ねた受講生が、学んだ表現を用いて、あるいは応用させることによって、少しずつ簡単な内容の意思疎通ができるようにする。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| はじめて韓国語を学ぶ人が、1) 韓国語と固有の文字 (ハングル) の基本的特徴を理解する。ハングルを正確に書け、発音できるようになる。2) 文法的には最も基本の文法 (「～は」「～が」といった助詞や、「～です/ます」丁寧語尾) を理解し、基本的な単語を覚え、簡単な文章で表現することができる。終了時にハングル能力検定5級程度の能力を獲得できる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」および「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 宿題、授業中に行う小テスト、中間試験、期末試験を総合し決定する。香川大学の全学的な評価基準に基づき、全体の3分の2以上の出席がない場合は不可となり、中間テストと期末テストを主とする総合評価で100点満点のうち60点以上で合格となる。 | | | |
| 成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| 【授業計画】 テキストの各課を順番に学び進め、概ね中ごろで中間テストを行い、最後の授業までにテキストの最終課 (第12課) までの内容を学び終える。 クラスの大半の学生の理解度にあわせて進度は調節されるが、標準的な進度の一例は以下のとおりである。 第1回 オリエンテーション、テキスト第1課 文字と発音 (1) 単母音 第2回 第1課 文字と発音 (2) 半母音 第3回 第2課 文字と発音 (3) 初声 (平音) 第4回 第2課 文字と発音 (4) 二重母音 第5回 第3課 文字と発音 (5) 初声 (激音)、初声 (濃音) 第6回 第3課 文字と発音 (6) 終声 第7回 第4課 「～は」「名詞+です (ハムニダ体)」 第8回 第4課 第4課本文解説・音読練習 第9回 第5課 「～が」「名詞+です (ヘヨ体)」 第10回 第5課 第5課本文解説・音読練習 第11回 第6課 漢数詞、「～(場所)に」 第12回 第6課 「あります/ないです」、第6課本文解説・音読練習 第13回 第7課 「～を」「～も」「～です/ます (ヘヨ体)」作文 | | | |

| | | |
|------|-------|---------------------------------|
| 第14回 | 第7課 | 第7課本文解説・音読練習 |
| 第15回 | 中間テスト | |
| 第16回 | 第8課 | 縮約パターン1～4の「～です/ます（ヘヨ体）」 |
| 第17回 | 第8課 | 「～（場所）で」「～（人）に」、中間テスト返却・解説 |
| 第18回 | 第8課 | 第8課本文解説・音読 |
| 第19回 | 第9課 | 縮約パターン5～9の「～です/ます（ヘヨ体）」 |
| 第20回 | 第9課 | 手段・方法の「～で」、「～（場所）から～（場所）へ」、固有数詞 |
| 第21回 | 第9課 | 第9課本文解説・音読 |
| 第22回 | 第10課 | 丁寧形のハダ変則 |
| 第23回 | 第10課 | 「～しに」「～（時間）から～（時間）まで」 |
| 第24回 | 第10課 | 第10課本文解説・音読 |
| 第25回 | 第11課 | 過去形 |
| 第26回 | 第11課 | ウ変則活用、否定形 |
| 第27回 | 第11課 | 第11課本文解説・音読練習 |
| 第28回 | 第12課 | 尊敬形 |
| 第29回 | 第12課 | 「～するつもりです」、「～したい」 |
| 第30回 | 第12課 | 第12課本文解説・音読練習 |

【授業及び学習の方法】

この科目は基本的に対面授業を行う。一部の授業回では遠隔授業を行う。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性がある。

テキストを使用して授業を行い、ハングルを正しく書け、発音できるようになると同時に基本的な単語を覚える。授業時間内だけで初めて学ぶ新しい文字とその発音を覚えることはできないので、履修生各自が前回内容を復習した上で毎回の授業の臨むことが必須となる。常に口を動かし（発音・発話練習）、手を動かして（正しいスペルで書き、正しく活用させる練習）学んでもらうので、能動的な姿勢で授業に臨むことが求められる。

授業中に中間テストを含むテストを行い、クラスの理解度を確認しながら、進歩を進める。当然ながらクラスの大半が理解できていることを確認して進歩を進め、クラスの大半にとって適度な速度で進歩を進める（予復習を怠るごく一部の学生にあわせるのではない）。テストの前は時間をとってテスト準備をすること。

【自学自習のアドバイス】

テストで存在しないハングル（自分で勝手に作ったハングルらしきもの）を書く学生が少なくない。初めて学ぶ文字の習得を甘く考え、授業時間以外に復習の時間を持つことを怠れば、この授業をパスすることは困難である。このことを理解している人だけが履修すること。また「韓国語は日本語に似ていて簡単そう」という思い込みを捨て、初めて学ぶ外国語として真剣に取り組まないと入口の段階で挫折することになる。基礎段階からしっかり取り組むこと。

教科書・参考書等

テキストは全クラス共通の指定テキストを使用する。今年は、李潤玉ほか『韓国語の世界へ—入門編—』（朝日出版社）を使用する。大学生協で購入すること。この授業ではまだ辞書を使用しない。

オフィスアワー 各担当教員が授業時間前後の休み時間に対応する。担当教員が非常勤講師の場合、10分休みでは対応できないような長い相談は、前の週に申し出て、授業前後の時間の都合をうかがい、約束しておくことが望ましい。専任教員（宮島のみ）の場合は研究室（南7号館3階から南4号館3階に移転予定）で対応し、水4をオフィスアワーとするが、会議で不在となる場合も多いので、事前に約束すること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

香川大学全体の規定のとおり、欠席が全体の3分の1に達した場合（出席が3分の2以下の場合）、その時点で不合格決定となる。

| | | | |
|--|-------------------------------------|--|--|
| ナンバリングコード B2KOR-abxG-10-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 046104) 韓国語 I (4) Korean I Korean I | 科目区分 外国語科目 | 時間割 2023年度 前期月4, 木3 | 対象年次 1~ |
| | 水準 学士: 基礎科目 分野 韓国語 | 提供部局 : 大教センター DPコード : abx | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし |
| | 授業形態 講義 | 単位数 2 | |
| 担当教員名 宮島 美花, 崔 栄殊 | 関連授業科目 | | |
| | 履修推奨科目 | | |
| 学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間) | | | |
| 授業の概要 韓国語 I の各クラスはいずれも同内容である。はじめて韓国語を学ぶ人を対象とする。文字・発音の習得に力点をおきながら、平易な構文でかつ実際の日常で使用される頻度の高い表現を通じて、基礎的な文法事項を学んでいく。 | | | |
| 授業の目的 基本的な構文による平易な内容について韓国語の基礎能力を養成する。韓国語は、語順が日本語と似ている上に、共通する漢字語も多いので、日本語話者には入りやすい外国語である。しかしながら、外国語である以上、手を抜かずに努力をしなければならないことは他の外国語の場合と同じである。そうした地道な努力を積み重ねた受講生が、学んだ表現を用いて、あるいは応用させることによって、少しずつ簡単な内容の意思疎通ができるようにする。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| はじめて韓国語を学ぶ人が、1) 韓国語と固有の文字 (ハングル) の基本的特徴を理解する。ハングルを正確に書け、発音できるようになる。2) 文法的には最も基本の文法 (「~は」「~が」といった助詞や、「~です/ます」丁寧語尾) を理解し、基本的な単語を覚え、簡単な文章で表現することができる。終了時にハングル能力検定5級程度の能力を獲得できる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」および「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 宿題、授業中に行う小テスト、中間試験、期末試験を総合し決定する。香川大学の全学的な評価基準に基づき、全体の3分の2以上の出席がない場合は不可となり、中間テストと期末テストを主とする総合評価で100点満点のうち60点以上で合格となる。 | | | |
| 成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| 【授業計画】 テキストの各課を順番に学び進め、概ね中ごろで中間テストを行い、最後の授業までにテキストの最終課 (第12課) までの内容を学び終える。 クラスの大半の学生の理解度にあわせて進度は調節されるが、標準的な進度の一例は以下のとおりである。 第1回 オリエンテーション、テキスト第1課 文字と発音 (1) 単母音 第2回 第1課 文字と発音 (2) 半母音 第3回 第2課 文字と発音 (3) 初声 (平音) 第4回 第2課 文字と発音 (4) 二重母音 第5回 第3課 文字と発音 (5) 初声 (激音)、初声 (濃音) 第6回 第3課 文字と発音 (6) 終声 第7回 第4課 「~は」「名詞+です (ハムニダ体)」 第8回 第4課 第4課本文解説・音読練習 第9回 第5課 「~が」「名詞+です (ヘヨ体)」 第10回 第5課 第5課本文解説・音読練習 第11回 第6課 漢数詞、「~ (場所) に」 第12回 第6課 「あります/ないです」、第6課本文解説・音読練習 第13回 第7課 「~を」「~も」「~です/ます (ヘヨ体)」作文 | | | |

| | | |
|------|-------|---------------------------------|
| 第14回 | 第7課 | 第7課本文解説・音読練習 |
| 第15回 | 中間テスト | |
| 第16回 | 第8課 | 縮約パターン1～4の「～です/ます（ヘヨ体）」 |
| 第17回 | 第8課 | 「～（場所）で」「～（人）に」、中間テスト返却・解説 |
| 第18回 | 第8課 | 第8課本文解説・音読 |
| 第19回 | 第9課 | 縮約パターン5～9の「～です/ます（ヘヨ体）」 |
| 第20回 | 第9課 | 手段・方法の「～で」、「～（場所）から～（場所）へ」、固有数詞 |
| 第21回 | 第9課 | 第9課本文解説・音読 |
| 第22回 | 第10課 | 丁寧形のハダ変則 |
| 第23回 | 第10課 | 「～しに」「～（時間）から～（時間）まで」 |
| 第24回 | 第10課 | 第10課本文解説・音読 |
| 第25回 | 第11課 | 過去形 |
| 第26回 | 第11課 | ウ変則活用、否定形 |
| 第27回 | 第11課 | 第11課本文解説・音読練習 |
| 第28回 | 第12課 | 尊敬形 |
| 第29回 | 第12課 | 「～するつもりです」、「～したい」 |
| 第30回 | 第12課 | 第12課本文解説・音読練習 |

【授業及び学習の方法】

この科目は基本的に対面授業を行う。一部の授業回では遠隔授業を行う。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性がある。

テキストを使用して授業を行い、ハングルを正しく書け、発音できるようになると同時に基本的な単語を覚える。授業時間内だけで初めて学ぶ新しい文字とその発音を覚えることはできないので、履修生各自が前回内容を復習した上で毎回の授業の臨むことが必須となる。常に口を動かし（発音・発話練習）、手を動かして（正しいスペルで書き、正しく活用させる練習）学んでもらうので、能動的な姿勢で授業に臨むことが求められる。

授業中に中間テストを含むテストを行い、クラスの理解度を確認しながら、進歩を進める。当然ながらクラスの大抵が理解できていることを確認して進歩を進め、クラスの大抵にとって適度な速度で進歩を進める（予復習を怠るごく一部の学生にあわせるのではない）。テストの前は時間をとってテスト準備をすること。

【自学自習のアドバイス】

テストで存在しないハングル（自分で勝手に作ったハングルらしきもの）を書く学生が少なくない。初めて学ぶ文字の習得を甘く考え、授業時間以外に復習の時間を持つことを怠れば、この授業をパスすることは困難である。このことを理解している人だけが履修すること。また「韓国語は日本語に似ていて簡単そう」という思い込みを捨て、初めて学ぶ外国語として真剣に取り組まないと入口の段階で挫折することになる。基礎段階からしっかり取り組むこと。

教科書・参考書等

テキストは全クラス共通の指定テキストを使用する。今年は、李潤玉ほか『韓国語の世界へ—入門編—』（朝日出版社）を使用する。大学生協で購入すること。この授業ではまだ辞書を使用しない。

オフィスアワー 各担当教員が授業時間前後の休み時間に対応する。担当教員が非常勤講師の場合、10分休みでは対応できないような長い相談は、前の週に申し出て、授業前後の時間の都合をうかがい、約束しておくことが望ましい。専任教員（宮島のみ）の場合は研究室（南7号館3階から南4号館3階に移転予定）で対応し、水4をオフィスアワーとするが、会議で不在となる場合も多いので、事前に約束すること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

香川大学全体の規定のとおり、欠席が全体の3分の1に達した場合（出席が3分の2以下の場合）、その時点で不合格決定となる。

| | | | |
|--|------------------------------------|--|--|
| ナンバリングコード B2KOR-abxG-10-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 046105) 韓国語 I (5) Korean I Korean I | 科目区分 外国語科目 | 時間割 2023年度 前期月4, 木3 | 対象年次 1～ |
| | 水準 学士:基礎科目 分野 韓国語 | 提供部局: 大教センター DPコード: abx | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし |
| | 授業形態 講義 | 単位数 2 | |
| 担当教員名 宮島 美花 | 関連授業科目 | | |
| | 履修推奨科目 | | |
| 学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間) | | | |
| 授業の概要 韓国語 I の各クラスはいずれも同内容である。はじめて韓国語を学ぶ人を対象とする。文字・発音の習得に力点をおきながら、平易な構文でかつ実際の日常で使用される頻度の高い表現を通じて、基礎的な文法事項を学んでいく。 | | | |
| 授業の目的 基本的な構文による平易な内容について韓国語の基礎能力を養成する。韓国語は、語順が日本語と似ている上に、共通する漢字語も多いので、日本語話者には入りやすい外国語である。しかしながら、外国語である以上、手を抜かずに努力をしなければならないことは他の外国語の場合と同じである。そうした地道な努力を積み重ねた受講生が、学んだ表現を用いて、あるいは応用させることによって、少しずつ簡単な内容の意味疎通ができるようにする。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| はじめて韓国語を学ぶ人が、1) 韓国語と固有の文字(ハングル)の基本的特徴を理解する。ハングルを正確に書け、発音できるようになる。2) 文法的には最も基本の文法(「～は」「～が」といった助詞や、「～です/ます」丁寧語尾)を理解し、基本的な単語を覚え、簡単な文章で表現することができる。終了時にハングル能力検定5級程度の能力を獲得できる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」および「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 宿題、授業中に行う小テスト、中間試験、期末試験を総合し決定する。香川大学の全学的な評価基準に基づき、全体の3分の2以上の出席がない場合は不可となり、中間テストと期末テストを主とする総合評価で100点満点のうち60点以上で合格となる。 | | | |
| 成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| 【授業計画】 テキストの各課を順番に学び進め、概ね中ごろで中間テストを行い、最後の授業までにテキストの最終課(第12課)までの内容を学び終える。 クラスの大半の学生の理解度にあわせて進度は調節されるが、標準的な進度の一例は以下のとおりである。 第1回 オリエンテーション、テキスト第1課 文字と発音 (1) 単母音 第2回 第1課 文字と発音 (2) 半母音 第3回 第2課 文字と発音 (3) 初声(平音) 第4回 第2課 文字と発音 (4) 二重母音 第5回 第3課 文字と発音 (5) 初声(激音)、初声(濃音) 第6回 第3課 文字と発音 (6) 終声 第7回 第4課 「～は」「名詞+です(ハムニダ体)」 第8回 第4課 第4課本文解説・音読練習 第9回 第5課 「～が」「名詞+です(ヘヨ体)」 第10回 第5課 第5課本文解説・音読練習 第11回 第6課 漢数詞、「～(場所)に」 第12回 第6課 「あります/ないです」、第6課本文解説・音読練習 第13回 第7課 「～を」「～も」「～です/ます(ヘヨ体)」作文 | | | |

| | | |
|------|-------|---------------------------------|
| 第14回 | 第7課 | 第7課本文解説・音読練習 |
| 第15回 | 中間テスト | |
| 第16回 | 第8課 | 縮約パターン1～4の「～です/ます（ヘヨ体）」 |
| 第17回 | 第8課 | 「～（場所）で」「～（人）に」、中間テスト返却・解説 |
| 第18回 | 第8課 | 第8課本文解説・音読 |
| 第19回 | 第9課 | 縮約パターン5～9の「～です/ます（ヘヨ体）」 |
| 第20回 | 第9課 | 手段・方法の「～で」、「～（場所）から～（場所）へ」、固有数詞 |
| 第21回 | 第9課 | 第9課本文解説・音読 |
| 第22回 | 第10課 | 丁寧形のハダ変則 |
| 第23回 | 第10課 | 「～しに」「～（時間）から～（時間）まで」 |
| 第24回 | 第10課 | 第10課本文解説・音読 |
| 第25回 | 第11課 | 過去形 |
| 第26回 | 第11課 | ウ変則活用、否定形 |
| 第27回 | 第11課 | 第11課本文解説・音読練習 |
| 第28回 | 第12課 | 尊敬形 |
| 第29回 | 第12課 | 「～するつもりです」、「～したい」 |
| 第30回 | 第12課 | 第12課本文解説・音読練習 |

【授業及び学習の方法】

この科目は基本的に対面授業を行う。一部の授業回では遠隔授業を行う。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性がある。

テキストを使用して授業を行い、ハングルを正しく書け、発音できるようになると同時に基本的な単語を覚える。授業時間内だけで初めて学ぶ新しい文字とその発音を覚えることはできないので、履修生各自が前回内容を復習した上で毎回の授業の臨むことが必須となる。常に口を動かし（発音・発話練習）、手を動かして（正しいスペルで書き、正しく活用させる練習）学んでもらうので、能動的な姿勢で授業に臨むことが求められる。

授業中に中間テストを含むテストを行い、クラスの理解度を確認しながら、進歩を進める。当然ながらクラスの大半が理解できていることを確認して進歩を進め、クラスの大半にとって適度な速度で進歩を進める（予復習を怠るごく一部の学生にあわせるのではない）。テストの前は時間をとってテスト準備をすること。

【自学自習のアドバイス】

テストで存在しないハングル（自分で勝手に作ったハングルらしきもの）を書く学生が少なくない。初めて学ぶ文字の習得を甘く考え、授業時間以外に復習の時間を持つことを怠れば、この授業をパスすることは困難である。このことを理解している人だけが履修すること。また「韓国語は日本語に似ていて簡単そう」という思い込みを捨て、初めて学ぶ外国語として真剣に取り組まないと入口の段階で挫折することになる。基礎段階からしっかり取り組むこと。

教科書・参考書等

テキストは全クラス共通の指定テキストを使用する。今年は、李潤玉ほか『韓国語の世界へ—入門編—』（朝日出版社）を使用する。大学生協で購入すること。この授業ではまだ辞書を使用しない。

オフィスアワー 各担当教員が授業時間前後の休み時間に対応する。担当教員が非常勤講師の場合、10分休みでは対応できないような長い相談は、前の週に申し出て、授業前後の時間の都合をうかがい、約束しておくことが望ましい。専任教員（宮島のみ）の場合は研究室（南7号館3階から南4号館3階に移転予定）で対応し、水4をオフィスアワーとするが、会議で不在となる場合も多いので、事前に約束すること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

香川大学全体の規定のとおり、欠席が全体の3分の1に達した場合（出席が3分の2以下の場合）、その時点で不合格決定となる。

| | | | |
|--|------------------------------------|--|--|
| ナンバリングコード B2KOR-abxG-10-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 046106) 韓国語 I (6) Korean I Korean I | 科目区分 外国語科目 | 時間割 2023年度 前期水2, 金4 | 対象年次 1～ |
| | 水準 学士:基礎科目 分野 韓国語 | 提供部局 : 大教センター DPコード : abx | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし |
| | 授業形態 講義 | 単位数 2 | |
| 担当教員名 宮島 美花 | 関連授業科目 | | |
| | 履修推奨科目 | | |
| 学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間) | | | |
| 授業の概要 韓国語 I の各クラスはいずれも同内容である。はじめて韓国語を学ぶ人を対象とする。文字・発音の習得に力点をおきながら、平易な構文でかつ実際の日常で使用される頻度の高い表現を通じて、基礎的な文法事項を学んでいく。 | | | |
| 授業の目的 基本的な構文による平易な内容について韓国語の基礎能力を養成する。韓国語は、語順が日本語と似ている上に、共通する漢字語も多いので、日本語話者には入りやすい外国語である。しかしながら、外国語である以上、手を抜かずに努力をしなければならないことは他の外国語の場合と同じである。そうした地道な努力を積み重ねた受講生が、学んだ表現を用いて、あるいは応用させることによって、少しずつ簡単な内容の意思疎通ができるようにする。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| はじめて韓国語を学ぶ人が、1) 韓国語と固有の文字(ハングル)の基本的特徴を理解する。ハングルを正確に書け、発音できるようになる。2) 文法的には最も基本の文法(「～は」「～が」といった助詞や、「～です/ます」丁寧語尾)を理解し、基本的な単語を覚え、簡単な文章で表現することができる。終了時にハングル能力検定5級程度の能力を獲得できる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」および「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 宿題、授業中に行う小テスト、中間試験、期末試験を総合し決定する。香川大学の全学的な評価基準に基づき、全体の3分の2以上の出席がない場合は不可となり、中間テストと期末テストを主とする総合評価で100点満点のうち60点以上で合格となる。 | | | |
| 成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| 【授業計画】 テキストの各課を順番に学び進め、概ね中ごろで中間テストを行い、最後の授業までにテキストの最終課(第12課)までの内容を学び終える。 クラスの大半の学生の理解度にあわせて進度は調節されるが、標準的な進度の一例は以下のとおりである。 第1回 オリエンテーション、テキスト第1課 文字と発音 (1) 単母音 第2回 第1課 文字と発音 (2) 半母音 第3回 第2課 文字と発音 (3) 初声(平音) 第4回 第2課 文字と発音 (4) 二重母音 第5回 第3課 文字と発音 (5) 初声(激音)、初声(濃音) 第6回 第3課 文字と発音 (6) 終声 第7回 第4課 「～は」「名詞+です(ハムニダ体)」 第8回 第4課 第4課本文解説・音読練習 第9回 第5課 「～が」「名詞+です(ヘヨ体)」 第10回 第5課 第5課本文解説・音読練習 第11回 第6課 漢数詞、「～(場所)に」 第12回 第6課 「あります/ないです」、第6課本文解説・音読練習 第13回 第7課 「～を」「～も」「～です/ます(ヘヨ体)」作文 | | | |

| | | |
|------|-------|---------------------------------|
| 第14回 | 第7課 | 第7課本文解説・音読練習 |
| 第15回 | 中間テスト | |
| 第16回 | 第8課 | 縮約パターン1～4の「～です/ます（ヘヨ体）」 |
| 第17回 | 第8課 | 「～（場所）で」「～（人）に」、中間テスト返却・解説 |
| 第18回 | 第8課 | 第8課本文解説・音読 |
| 第19回 | 第9課 | 縮約パターン5～9の「～です/ます（ヘヨ体）」 |
| 第20回 | 第9課 | 手段・方法の「～で」、「～（場所）から～（場所）へ」、固有数詞 |
| 第21回 | 第9課 | 第9課本文解説・音読 |
| 第22回 | 第10課 | 丁寧形のハダ変則 |
| 第23回 | 第10課 | 「～しに」「～（時間）から～（時間）まで」 |
| 第24回 | 第10課 | 第10課本文解説・音読 |
| 第25回 | 第11課 | 過去形 |
| 第26回 | 第11課 | ウ変則活用、否定形 |
| 第27回 | 第11課 | 第11課本文解説・音読練習 |
| 第28回 | 第12課 | 尊敬形 |
| 第29回 | 第12課 | 「～するつもりです」、「～したい」 |
| 第30回 | 第12課 | 第12課本文解説・音読練習 |

【授業及び学習の方法】

この科目は基本的に対面授業を行う。一部の授業回では遠隔授業を行う。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性がある。

テキストを使用して授業を行い、ハングルを正しく書け、発音できるようになると同時に基本的な単語を覚える。授業時間内だけで初めて学ぶ新しい文字とその発音を覚えることはできないので、履修生各自が前回内容を復習した上で毎回の授業の臨むことが必須となる。常に口を動かし（発音・発話練習）、手を動かして（正しいスペルで書き、正しく活用させる練習）学んでもらうので、能動的な姿勢で授業に臨むことが求められる。

授業中に中間テストを含むテストを行い、クラスの理解度を確認しながら、進歩を進める。当然ながらクラスの大半が理解できていることを確認して進歩を進め、クラスの大半にとって適度な速度で進歩を進める（予復習を怠るごく一部の学生にあわせるのではない）。テストの前は時間をとってテスト準備をすること。

【自学自習のアドバイス】

テストで存在しないハングル（自分で勝手に作ったハングルらしきもの）を書く学生が少なくない。初めて学ぶ文字の習得を甘く考え、授業時間以外に復習の時間を持つことを怠れば、この授業をパスすることは困難である。このことを理解している人だけが履修すること。また「韓国語は日本語に似ていて簡単そう」という思い込みを捨て、初めて学ぶ外国語として真剣に取り組まないと入口の段階で挫折することになる。基礎段階からしっかり取り組むこと。

教科書・参考書等

テキストは全クラス共通の指定テキストを使用する。今年は、李潤玉ほか『韓国語の世界へ—入門編—』（朝日出版社）を使用する。大学生協で購入すること。この授業ではまだ辞書を使用しない。

オフィスアワー 各担当教員が授業時間前後の休み時間に対応する。担当教員が非常勤講師の場合、10分休みでは対応できないような長い相談は、前の週に申し出て、授業前後の時間の都合をうかがい、約束しておくことが望ましい。専任教員（宮島のみ）の場合は研究室（南7号館3階から南4号館3階に移転予定）で対応し、水4をオフィスアワーとするが、会議で不在となる場合も多いので、事前に約束すること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

香川大学全体の規定のとおり、欠席が全体の3分の1に達した場合（出席が3分の2以下の場合）、その時点で不合格決定となる。

| | | | |
|--|------------------------------------|--|--|
| ナンバリングコード B2KOR-abxG-10-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 046107) 韓国語 I (7) Korean I Korean I | 科目区分 外国語科目 | 時間割 2023年度 前期水2, 金4 | 対象年次 1~ |
| | 水準 学士:基礎科目 分野 韓国語 | 提供部局: 大教センター DPコード: abx | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし |
| | 授業形態 講義 | 単位数 2 | |
| 担当教員名 谷崎 美津子 | 関連授業科目 | | |
| | 履修推奨科目 | | |
| 学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間) | | | |
| 授業の概要 韓国語 I の各クラスはいずれも同内容である。はじめて韓国語を学ぶ人を対象とする。文字・発音の習得に力点をおきながら、平易な構文でかつ実際の日常で使用される頻度の高い表現を通じて、基礎的な文法事項を学んでいく。 | | | |
| 授業の目的 基本的な構文による平易な内容について韓国語の基礎能力を養成する。韓国語は、語順が日本語と似ている上に、共通する漢字語も多いので、日本語話者には入りやすい外国語である。しかしながら、外国語である以上、手を抜かずに努力をしなければならないことは他の外国語の場合と同じである。そうした地道な努力を積み重ねた受講生が、学んだ表現を用いて、あるいは応用させることによって、少しずつ簡単な内容の意思疎通ができるようにする。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| はじめて韓国語を学ぶ人が、1) 韓国語と固有の文字(ハングル)の基本的特徴を理解する。ハングルを正確に書け、発音できるようになる。2) 文法的には最も基本の文法(「~は」「~が」といった助詞や、「~です/ます」丁寧語尾)を理解し、基本的な単語を覚え、簡単な文章で表現することができる。終了時にハングル能力検定5級程度の能力を獲得できる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」および「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 宿題、授業中に行う小テスト、中間試験、期末試験を総合し決定する。香川大学の全学的な評価基準に基づき、全体の3分の2以上の出席がない場合は不可となり、中間テストと期末テストを主とする総合評価で100点満点のうち60点以上で合格となる。 | | | |
| 成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| 【授業計画】 テキストの各課を順番に学び進め、概ね中ごろで中間テストを行い、最後の授業までにテキストの最終課(第12課)までの内容を学び終える。 クラスの大半の学生の理解度にあわせて進度は調節されるが、標準的な進度の一例は以下のとおりである。 第1回 オリエンテーション、テキスト第1課 文字と発音 (1) 単母音 第2回 第1課 文字と発音 (2) 半母音 第3回 第2課 文字と発音 (3) 初声(平音) 第4回 第2課 文字と発音 (4) 二重母音 第5回 第3課 文字と発音 (5) 初声(激音)、初声(濃音) 第6回 第3課 文字と発音 (6) 終声 第7回 第4課 「~は」「名詞+です(ハムニダ体)」 第8回 第4課 第4課本文解説・音読練習 第9回 第5課 「~が」「名詞+です(ヘヨ体)」 第10回 第5課 第5課本文解説・音読練習 第11回 第6課 漢数詞、「~(場所)に」 第12回 第6課 「あります/ないです」、第6課本文解説・音読練習 第13回 第7課 「~を」「~も」「~です/ます(ヘヨ体)」作文 | | | |

| | | |
|------|-------|---------------------------------|
| 第14回 | 第7課 | 第7課本文解説・音読練習 |
| 第15回 | 中間テスト | |
| 第16回 | 第8課 | 縮約パターン1～4の「～です/ます（ヘヨ体）」 |
| 第17回 | 第8課 | 「～（場所）で」「～（人）に」、中間テスト返却・解説 |
| 第18回 | 第8課 | 第8課本文解説・音読 |
| 第19回 | 第9課 | 縮約パターン5～9の「～です/ます（ヘヨ体）」 |
| 第20回 | 第9課 | 手段・方法の「～で」、「～（場所）から～（場所）へ」、固有数詞 |
| 第21回 | 第9課 | 第9課本文解説・音読 |
| 第22回 | 第10課 | 丁寧形のハダ変則 |
| 第23回 | 第10課 | 「～しに」「～（時間）から～（時間）まで」 |
| 第24回 | 第10課 | 第10課本文解説・音読 |
| 第25回 | 第11課 | 過去形 |
| 第26回 | 第11課 | ウ変則活用、否定形 |
| 第27回 | 第11課 | 第11課本文解説・音読練習 |
| 第28回 | 第12課 | 尊敬形 |
| 第29回 | 第12課 | 「～するつもりです」、「～したい」 |
| 第30回 | 第12課 | 第12課本文解説・音読練習 |

【授業及び学習の方法】

この科目は基本的に対面授業を行う。一部の授業回では遠隔授業を行う。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性がある。

テキストを使用して授業を行い、ハングルを正しく書け、発音できるようになると同時に基本的な単語を覚える。授業時間内だけで初めて学ぶ新しい文字とその発音を覚えることはできないので、履修生各自が前回内容を復習した上で毎回の授業の臨むことが必須となる。常に口を動かし（発音・発話練習）、手を動かして（正しいスペルで書き、正しく活用させる練習）学んでもらうので、能動的な姿勢で授業に臨むことが求められる。

授業中に中間テストを含むテストを行い、クラスの理解度を確認しながら、進歩を進める。当然ながらクラスの大半が理解できていることを確認して進歩を進め、クラスの大半にとって適度な速度で進歩を進める（予復習を怠るごく一部の学生にあわせるのではない）。テストの前は時間をとってテスト準備をすること。

【自学自習のアドバイス】

テストで存在しないハングル（自分で勝手に作ったハングルらしきもの）を書く学生が少なくない。初めて学ぶ文字の習得を甘く考え、授業時間以外に復習の時間を持つことを怠れば、この授業をパスすることは困難である。このことを理解している人だけが履修すること。また「韓国語は日本語に似ていて簡単そう」という思い込みを捨て、初めて学ぶ外国語として真剣に取り組まないと入口の段階で挫折することになる。基礎段階からしっかり取り組むこと。

教科書・参考書等

テキストは全クラス共通の指定テキストを使用する。今年は、李潤玉ほか『韓国語の世界へ—入門編—』（朝日出版社）を使用する。大学生協で購入すること。この授業ではまだ辞書を使用しない。

オフィスアワー 各担当教員が授業時間前後の休み時間に対応する。担当教員が非常勤講師の場合、10分休みでは対応できないような長い相談は、前の週に申し出て、授業前後の時間の都合をうかがい、約束しておくことが望ましい。専任教員（宮島のみ）の場合は研究室（南7号館3階から南4号館3階に移転予定）で対応し、水4をオフィスアワーとするが、会議で不在となる場合も多いので、事前に約束すること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

香川大学全体の規定のとおり、欠席が全体の3分の1に達した場合（出席が3分の2以下の場合）、その時点で不合格決定となる。

| | | | |
|--|-----------------------|----------------------------|---------------------------------|
| ナンバリングコード B2KOR-abxG-10-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 046201) 韓国語Ⅱ (1) Korean II Korean II | 科目区分 外国語科目 | 時間割 2023年度 後期月3, 木2 | 対象年次 1～ |
| | 水準 学士: 基礎科目 分野 韓国語 | 提供部局: 大教センター DPコード: abx | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし |
| | 授業形態 講義 | 単位数 2 | |
| 担当教員名 谷崎 美津子 | 関連授業科目 履修推奨科目 | | |
| 学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間) | | | |
| 授業の概要 韓国語Ⅱの各クラスはいずれも同内容である。前期に韓国語Ⅰを履修した人を対象とする。引き続き、平易な構文でかつ実際の日常で使用される頻度の高い表現を通じて、基礎的な文法事項を学んでいく。 | | | |
| 授業の目的 前期に韓国語と固有の文字(ハングル)の基本的特徴を理解した初学者が、更に、発音と文法について学習を進める。鼻音化等の発音変化に対する理解を深め、発音の訓練をする。文法的には最も基本の活用から、連体形、変則活用へと学び進める。基本的な単語を覚え、単語数を増やす。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| 韓国語Ⅰの既習者が、基本的な表現や文法事項を更に学び進め、学んだ表現を用いて、あるいは応用させることによって、少しずつ簡単な内容の意思疎通ができる。基本的な構文による平易な内容について、初級後半期から中級に入っていける程度の韓国語能力を養成し、終了時にハングル能力検定4級程度の能力を獲得できる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」および「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) | | | |
| 成績評価の方法と基準 宿題、授業中に行う小テスト、中間試験、期末試験を総合し決定する。香川大学の全学的な評価基準に基づき、全体の3分の2以上の出席がない場合は不可となり、中間テストと期末テストを主とする総合評価で100点満点のうち60点以上で合格となる。 | | | |
| 成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| 【授業計画】 今年度の前期「韓国語Ⅰ」使用した教科書の後続テキストを使用し学ぶ。第1回(初回)は、オリエンテーション、および前期内容の復習(第1課)を学習する。第2回以降は、テキスト第2課以降に進み、前期の学習内容の先の新たな内容を学習していく。「するつもりです」「してください」「してもいいですか」などの多様な表現や、基本活用の定着のうえに多様な変則活用を学ぶ。 テキストに沿って順番に学び進め、学期の中頃に中間テストを行い、学期の最後の授業までにテキスト最終課(第12課)を学び終える。 クラスの大半の学生の理解度にあわせて進度は調節されるが、標準的な進度の一例は以下のとおりである。 第1～2回 第1課 2つの丁寧形 ??体と???体 第3～4回 第2課 「～するつもりです」「～して(?)～」「～でしょう?」 第5～6回 第3課 「～だけれど～」「～してあげる/くれる」、形容詞の現在連体形 第7～8回 第4課 「～なら、すれば」、否定形、動詞の現在連体形 第9～10回 第5課 「～ですねえ」、動詞の過去連体形、?変則活用 第11～12回 第6課 「～して(?!?)～」、尊敬形、未来連体形、不可能形 第13～14回 第7課 経験の表現、「～している(?!?)」、?変則活用 第15回 中間テスト 第16～18回 第8課 中間テスト返却・解説、「～している(?!?)」「～だから～」、約束表現 第19～21回 第9課 婉曲・前提表現、「～してもよい」、?変則活用 第22～24回 第10課 意思・推量、「～なものですから」「～ねばならない」 | | | |

第25～27回 第11課 「～しましょうか?」「～してみる」、可能/不可能
第28～30回 第12課 「～する/した/しそうだ」「しようと思う」、禁止表現

【授業及び学習の方法】

この科目は基本的に対面授業を行う。一部の授業回では遠隔授業を行う。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性がある。

韓国語Ⅰで習得した基礎文法の上に立って、更に表現をふやす。各活用など新たな文法事項を学ぶ。挨拶を聞き取って対応する練習や、学んだ基礎文法を用いて、ないし応用し、表現する力を訓練する。

常に口を動かし（発音・発話練習）、手を動かして（正しいスペルで書き、正しく活用させる練習）学んでもらうので、能動的な姿勢で授業に臨むことが求められる。

【自学自習のアドバイス】

授業時間中に中間テストを含むテストを行い、クラスの理解度を確認しながら進歩を進める。当然ながらクラスの大半が理解できていることを確認し、クラスの大半にとって適切な速度で進歩を進める（予復習を怠るごく一部の学生に進歩を合わせるのではない）。小テストの前は事前に時間を取って、テスト準備を行うこと。

教科書・参考書等

テキストは全クラス共通の指定テキストを使用する。今年度の「韓国語Ⅰ」での使用テキストの後続テキストである李潤玉ほか『韓国語の世界へ—初中級編—』（朝日出版社）を使用する。大学生協で購入すること。この授業ではまだ辞書を使用しない。

オフィスアワー 各担当教員が授業時間前後の休み時間に対応する。担当教員が非常勤講師の場合、10分休みでは対応できないような長い相談は、前の週に申し出て、授業前後の時間の都合をうかがい、約束しておくことが望ましい。専任教員（宮島）の場合は研究室（南7号館3階から南4号館3階へ移転予定）で対応し、水4をオフィスアワーとするが、会議で不在にする場合も多いので、事前に約束すること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

各自、発音練習に教材に付属の音声資料（WEB）を有効に活用すること。

| | | | |
|--|-----------------------|----------------------------|---------------------------------|
| ナンバリングコード B2KOR-abxG-10-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 046202) 韓国語Ⅱ (2) Korean II Korean II | 科目区分 外国語科目 | 時間割 2023年度 後期月3, 木2 | 対象年次 1～ |
| | 水準 学士: 基礎科目 分野 韓国語 | 提供部局: 大教センター DPコード: abx | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし |
| | 授業形態 講義 | 単位数 2 | |
| 担当教員名 宮島 美花, 平 水晶 | 関連授業科目 履修推奨科目 | | |
| 学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間) | | | |
| 授業の概要 韓国語Ⅱの各クラスはいずれも同内容である。前期に韓国語Ⅰを履修した人を対象とする。引き続き、平易な構文でかつ実際の日常で使用される頻度の高い表現を通じて、基礎的な文法事項を学んでいく。 | | | |
| 授業の目的 前期に韓国語と固有の文字 (ハングル) の基本的特徴を理解した初学者が、更に、発音と文法について学習を進める。鼻音化等の発音変化に対する理解を深め、発音の訓練をする。文法的には最も基本の活用から、連体形、変則活用へと学び進める。基本的な単語を覚え、単語数を増やす。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| 韓国語Ⅰの既習者が、基本的な表現や文法事項を更に学び進め、学んだ表現を用いて、あるいは応用させることによって、少しずつ簡単な内容の意思疎通ができる。基本的な構文による平易な内容について、初級後半期から中級に入っていける程度の韓国語能力を養成し、終了時にハングル能力検定 4 級程度の能力を獲得できる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」および「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) | | | |
| 成績評価の方法と基準 宿題、授業中に行う小テスト、中間試験、期末試験を総合し決定する。香川大学の全学的な評価基準に基づき、全体の3分の2以上の出席がない場合は不可となり、中間テストと期末テストを主とする総合評価で100点満点のうち60点以上で合格となる。 | | | |
| 成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| 【授業計画】 今年度の前期「韓国語Ⅰ」使用した教科書の後続テキストを使用し学ぶ。第1回 (初回) は、オリエンテーション、および前期内容の復習 (第1課) を学習する。第2回以降は、テキスト第2課以降に進み、前期の学習内容の先の新たな内容を学習していく。「するつもりです」「してください」「してもいいですか」などの多様な表現や、基本活用の定着のうえに多様な変則活用を学ぶ。 テキストに沿って順番に学び進め、学期の中頃に中間テストを行い、学期の最後の授業までにテキスト最終課 (第12課) を学び終える。 クラスの大半の学生の理解度にあわせて進度は調節されるが、標準的な進度の一例は以下のとおりである。 第1～2回 第1課 2つの丁寧形 ??体と???体 第3～4回 第2課 「～するつもりです」「～して(?)～」「～でしょう?」 第5～6回 第3課 「～だけれど～」「～してあげる/くれる」、形容詞の現在連体形 第7～8回 第4課 「～なら、すれば」、否定形、動詞の現在連体形 第9～10回 第5課 「～ですねえ」、動詞の過去連体形、?変則活用 第11～12回 第6課 「～して(?!?)～」、尊敬形、未来連体形、不可能形 第13～14回 第7課 経験の表現、「～している(?!?)」、?変則活用 第15回 中間テスト 第16～18回 第8課 中間テスト返却・解説、「～している(?!?!?)」「～だから～」、約束表現 第19～21回 第9課 婉曲・前提表現、「～してもよい」、?変則活用 第22～24回 第10課 意思・推量、「～なものですから」「～ねばならない」 | | | |

第25～27回 第11課 「～しましょうか?」「～してみる」、可能/不可能
第28～30回 第12課 「～する/した/しそうだ」「しようと思う」、禁止表現

【授業及び学習の方法】

この科目は基本的に対面授業を行う。一部の授業回では遠隔授業を行う。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性がある。

韓国語Ⅰで習得した基礎文法の上に立って、更に表現をふやす。各活用など新たな文法事項を学ぶ。挨拶を聞き取って対応する練習や、学んだ基礎文法を用いて、ないし応用し、表現する力を訓練する。

常に口を動かし（発音・発話練習）、手を動かして（正しいスペルで書き、正しく活用させる練習）学んでもらうので、能動的な姿勢で授業に臨むことが求められる。

【自学自習のアドバイス】

授業時間中に中間テストを含むテストを行い、クラスの理解度を確認しながら進歩を進める。当然ながらクラスの大半が理解できていることを確認し、クラスの大半にとって適切な速度で進歩を進める（予復習を怠るごく一部の学生に進歩を合わせるのではない）。小テストの前は事前に時間を取って、テスト準備を行うこと。

教科書・参考書等

テキストは全クラス共通の指定テキストを使用する。今年度の「韓国語Ⅰ」での使用テキストの後続テキストである李潤玉ほか『韓国語の世界へ—初中級編—』（朝日出版社）を使用する。大学生協で購入すること。この授業ではまだ辞書を使用しない。

オフィスアワー 各担当教員が授業時間前後の休み時間に対応する。担当教員が非常勤講師の場合、10分休みでは対応できないような長い相談は、前の週に申し出て、授業前後の時間の都合をうかがい、約束しておくことが望ましい。専任教員（宮島）の場合は研究室（南7号館3階から南4号館3階へ移転予定）で対応し、水4をオフィスアワーとするが、会議で不在にする場合も多いので、事前に約束すること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

各自、発音練習に教材に付属の音声資料（WEB）を有効に活用すること。

| | | | |
|---|-----------------------|----------------------------|---------------------------------|
| ナンバリングコード B2KOR-abxG-10-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 046203) 韓国語Ⅱ (3) Korean II Korean II | 科目区分 外国語科目 | 時間割 2023年度 後期月3, 木2 | 対象年次 1～ |
| | 水準 学士: 基礎科目 分野 韓国語 | 提供部局: 大教センター DPコード: abx | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし |
| | 授業形態 講義 | 単位数 2 | |
| 担当教員名 宮島 美花, 崔 栄殊 | 関連授業科目 履修推奨科目 | | |
| 学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間) | | | |
| 授業の概要 韓国語Ⅱの各クラスはいずれも同内容である。前期に韓国語Ⅰを履修した人を対象とする。引き続き、平易な構文でかつ実際の日常で使用される頻度の高い表現を通じて、基礎的な文法事項を学んでいく。 | | | |
| 授業の目的 前期に韓国語と固有の文字(ハングル)の基本的特徴を理解した初学者が、更に、発音と文法について学習を進める。鼻音化等の発音変化に対する理解を深め、発音の訓練をする。文法的には最も基本の活用から、連体形、変則活用へと学び進める。基本的な単語を覚え、単語数を増やす。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| 韓国語Ⅰの既習者が、基本的な表現や文法事項を更に学び進め、学んだ表現を用いて、あるいは応用させることによって、少しずつ簡単な内容の意思疎通ができる。基本的な構文による平易な内容について、初級後半期から中級に入っていける程度の韓国語能力を養成し、終了時にハングル能力検定4級程度の能力を獲得できる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」および「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) | | | |
| 成績評価の方法と基準 宿題、授業中に行う小テスト、中間試験、期末試験を総合し決定する。香川大学の全学的な評価基準に基づき、全体の3分の2以上の出席がない場合は不可となり、中間テストと期末テストを主とする総合評価で100点満点のうち60点以上で合格となる。 | | | |
| 成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| 【授業計画】 今年度の前期「韓国語Ⅰ」使用した教科書の後続テキストを使用し学ぶ。第1回(初回)は、オリエンテーション、および前期内容の復習(第1課)を学習する。第2回以降は、テキスト第2課以降に進み、前期の学習内容の先の新たな内容を学習していく。「するつもりです」「してください」「してもいいですか」などの多様な表現や、基本活用の定着のうえに多様な変則活用を学ぶ。 テキストに沿って順番に学び進め、学期の中頃に中間テストを行い、学期の最後の授業までにテキスト最終課(第12課)を学び終える。 クラスの大半の学生の理解度にあわせて進度は調節されるが、標準的な進度の一例は以下のとおりである。 第1～2回 第1課 2つの丁寧形 ??体と???体 第3～4回 第2課 「～するつもりです」「～して(?)～」「～でしょう?」 第5～6回 第3課 「～だけれど～」「～してあげる/くれる」、形容詞の現在連体形 第7～8回 第4課 「～なら、すれば」、否定形、動詞の現在連体形 第9～10回 第5課 「～ですねえ」、動詞の過去連体形、?変則活用 第11～12回 第6課 「～して(?/??)～」、尊敬形、未来連体形、不可能形 第13～14回 第7課 経験の表現、「～している(? ??)」、?変則活用 第15回 中間テスト 第16～18回 第8課 中間テスト返却・解説、「～している(?/? ??)」「～だから～」、約束表現 第19～21回 第9課 婉曲・前提表現、「～してもよい」、?変則活用 第22～24回 第10課 意思・推量、「～なものですから」「～ねばならない」 | | | |

第25～27回 第11課 「～しましょうか?」「～してみる」、可能/不可能
第28～30回 第12課 「～する/した/しそうだ」「しようと思う」、禁止表現

【授業及び学習の方法】

この科目は基本的に対面授業を行う。一部の授業回では遠隔授業を行う。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性がある。

韓国語Ⅰで習得した基礎文法の上に立って、更に表現をふやす。各活用など新たな文法事項を学ぶ。挨拶を聞き取って対応する練習や、学んだ基礎文法を用いて、ないし応用し、表現する力を訓練する。

常に口を動かし（発音・発話練習）、手を動かして（正しいスペルで書き、正しく活用させる練習）学んでもらうので、能動的な姿勢で授業に臨むことが求められる。

【自学自習のアドバイス】

授業時間中に中間テストを含むテストを行い、クラスの理解度を確認しながら進歩を進める。当然ながらクラスの大半が理解できていることを確認し、クラスの大半にとって適切な速度で進歩を進める（予復習を怠るごく一部の学生に進歩を合わせるのではない）。小テストの前は事前に時間を取って、テスト準備を行うこと。

教科書・参考書等

テキストは全クラス共通の指定テキストを使用する。今年度の「韓国語Ⅰ」での使用テキストの後続テキストである李潤玉ほか『韓国語の世界へ—初中級編—』（朝日出版社）を使用する。大学生協で購入すること。この授業ではまだ辞書を使用しない。

オフィスアワー 各担当教員が授業時間前後の休み時間に対応する。担当教員が非常勤講師の場合、10分休みでは対応できないような長い相談は、前の週に申し出て、授業前後の時間の都合をうかがい、約束しておくことが望ましい。専任教員（宮島）の場合は研究室（南7号館3階から南4号館3階へ移転予定）で対応し、水4をオフィスアワーとするが、会議で不在にする場合も多いので、事前に約束すること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

各自、発音練習に教材に付属の音声資料（WEB）を有効に活用すること。

| | | | |
|---|-----------------------|----------------------------|---------------------------------|
| ナンバリングコード B2KOR-abxG-10-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 046204) 韓国語Ⅱ (4) Korean II Korean II | 科目区分 外国語科目 | 時間割 2023年度 後期月4, 木3 | 対象年次 1～ |
| | 水準 学士: 基礎科目 分野 韓国語 | 提供部局: 大教センター DPコード: abx | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし |
| | 授業形態 講義 | 単位数 2 | |
| 担当教員名 谷崎 美津子 | 関連授業科目 履修推奨科目 | | |
| 学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間) | | | |
| 授業の概要 韓国語Ⅱの各クラスはいずれも同内容である。前期に韓国語Ⅰを履修した人を対象とする。引き続き、平易な構文でかつ実際の日常で使用される頻度の高い表現を通じて、基礎的な文法事項を学んでいく。 | | | |
| 授業の目的 前期に韓国語と固有の文字(ハングル)の基本的特徴を理解した初学者が、更に、発音と文法について学習を進める。鼻音化等の発音変化に対する理解を深め、発音の訓練をする。文法的には最も基本の活用から、連体形、変則活用へと学び進める。基本的な単語を覚え、単語数を増やす。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| 韓国語Ⅰの既習者が、基本的な表現や文法事項を更に学び進め、学んだ表現を用いて、あるいは応用させることによって、少しずつ簡単な内容の意思疎通ができる。基本的な構文による平易な内容について、初級後半期から中級に入っていける程度の韓国語能力を養成し、終了時にハングル能力検定4級程度の能力を獲得できる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」および「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) | | | |
| 成績評価の方法と基準 宿題、授業中に行う小テスト、中間試験、期末試験を総合し決定する。香川大学の全学的な評価基準に基づき、全体の3分の2以上の出席がない場合は不可となり、中間テストと期末テストを主とする総合評価で100点満点のうち60点以上で合格となる。 | | | |
| 成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| 【授業計画】 今年度の前期「韓国語Ⅰ」使用した教科書の後続テキストを使用し学ぶ。第1回(初回)は、オリエンテーション、および前期内容の復習(第1課)を学習する。第2回以降は、テキスト第2課以降に進み、前期の学習内容の先の新たな内容を学習していく。「するつもりです」「してください」「してもいいですか」などの多様な表現や、基本活用の定着のうえに多様な変則活用を学ぶ。 テキストに沿って順番に学び進め、学期の中頃に中間テストを行い、学期の最後の授業までにテキスト最終課(第12課)を学び終える。 クラスの大半の学生の理解度にあわせて進度は調節されるが、標準的な進度の一例は以下のとおりである。 第1～2回 第1課 2つの丁寧形 ??体と???体 第3～4回 第2課 「～するつもりです」「～して(?)～」「～でしょう?」 第5～6回 第3課 「～だけれど～」「～してあげる/くれる」、形容詞の現在連体形 第7～8回 第4課 「～なら、すれば」、否定形、動詞の現在連体形 第9～10回 第5課 「～ですねえ」、動詞の過去連体形、?変則活用 第11～12回 第6課 「～して(?/??)～」、尊敬形、未来連体形、不可能形 第13～14回 第7課 経験の表現、「～している(? ??)」、?変則活用 第15回 中間テスト 第16～18回 第8課 中間テスト返却・解説、「～している(?/? ??)」「～だから～」、約束表現 第19～21回 第9課 婉曲・前提表現、「～してもよい」、?変則活用 第22～24回 第10課 意思・推量、「～なものですから」「～ねばならない」 | | | |

第25～27回 第11課 「～しましょうか?」「～してみる」、可能/不可能
第28～30回 第12課 「～する/した/しそうだ」「しようと思う」、禁止表現

【授業及び学習の方法】

この科目は基本的に対面授業を行う。一部の授業回では遠隔授業を行う。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性がある。

韓国語Ⅰで習得した基礎文法の上に立って、更に表現をふやす。各活用など新たな文法事項を学ぶ。挨拶を聞き取って対応する練習や、学んだ基礎文法を用いて、ないし応用し、表現する力を訓練する。

常に口を動かし（発音・発話練習）、手を動かして（正しいスペルで書き、正しく活用させる練習）学んでもらうので、能動的な姿勢で授業に臨むことが求められる。

【自学自習のアドバイス】

授業時間中に中間テストを含むテストを行い、クラスの理解度を確認しながら進歩を進める。当然ながらクラスの大半が理解できていることを確認し、クラスの大半にとって適切な速度で進歩を進める（予復習を怠るごく一部の学生に進歩を合わせるのではない）。小テストの前は事前に時間を取って、テスト準備を行うこと。

教科書・参考書等

テキストは全クラス共通の指定テキストを使用する。今年度の「韓国語Ⅰ」での使用テキストの後続テキストである李潤玉ほか『韓国語の世界へ—初中級編—』（朝日出版社）を使用する。大学生協で購入すること。この授業ではまだ辞書を使用しない。

オフィスアワー 各担当教員が授業時間前後の休み時間に対応する。担当教員が非常勤講師の場合、10分休みでは対応できないような長い相談は、前の週に申し出て、授業前後の時間の都合をうかがい、約束しておくことが望ましい。専任教員（宮島）の場合は研究室（南7号館3階から南4号館3階へ移転予定）で対応し、水4をオフィスアワーとするが、会議で不在にする場合も多いので、事前に約束すること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

各自、発音練習に教材に付属の音声資料（WEB）を有効に活用すること。

| | | | |
|--|-----------------------|----------------------------|---------------------------------|
| ナンバリングコード B2KOR-abxG-10-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 046205) 韓国語Ⅱ (5) Korean II Korean II | 科目区分 外国語科目 | 時間割 2023年度 後期月4, 木3 | 対象年次 1～ |
| | 水準 学士: 基礎科目 分野 韓国語 | 提供部局: 大教センター DPコード: abx | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし |
| | 授業形態 講義 | 単位数 2 | |
| 担当教員名 宮島 美花, 平 水晶 | 関連授業科目 履修推奨科目 | | |
| 学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間) | | | |
| 授業の概要 韓国語Ⅱの各クラスはいずれも同内容である。前期に韓国語Ⅰを履修した人を対象とする。引き続き、平易な構文でかつ実際の日常で使用される頻度の高い表現を通じて、基礎的な文法事項を学んでいく。 | | | |
| 授業の目的 前期に韓国語と固有の文字 (ハングル) の基本的特徴を理解した初学者が、更に、発音と文法について学習を進める。鼻音化等の発音変化に対する理解を深め、発音の訓練をする。文法的には最も基本の活用から、連体形、変則活用へと学び進める。基本的な単語を覚え、単語数を増やす。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| 韓国語Ⅰの既習者が、基本的な表現や文法事項を更に学び進め、学んだ表現を用いて、あるいは応用させることによって、少しずつ簡単な内容の意思疎通ができる。基本的な構文による平易な内容について、初級後半期から中級に入っていける程度の韓国語能力を養成し、終了時にハングル能力検定 4 級程度の能力を獲得できる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」および「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) | | | |
| 成績評価の方法と基準 宿題、授業中に行う小テスト、中間試験、期末試験を総合し決定する。香川大学の全学的な評価基準に基づき、全体の3分の2以上の出席がない場合は不可となり、中間テストと期末テストを主とする総合評価で100点満点のうち60点以上で合格となる。 | | | |
| 成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| 【授業計画】 今年度の前期「韓国語Ⅰ」使用した教科書の後続テキストを使用し学ぶ。第1回 (初回) は、オリエンテーション、および前期内容の復習 (第1課) を学習する。第2回以降は、テキスト第2課以降に進み、前期の学習内容の先の新たな内容を学習していく。「するつもりです」「してください」「してもいいですか」などの多様な表現や、基本活用の定着のうえに多様な変則活用を学ぶ。 テキストに沿って順番に学び進め、学期の中頃に中間テストを行い、学期の最後の授業までにテキスト最終課 (第12課) を学び終える。 クラスの大半の学生の理解度にあわせて進度は調節されるが、標準的な進度の一例は以下のとおりである。 第1～2回 第1課 2つの丁寧形 ??体と???体 第3～4回 第2課 「～するつもりです」「～して(?)～」「～でしょう?」 第5～6回 第3課 「～だけれど～」「～してあげる/くれる」、形容詞の現在連体形 第7～8回 第4課 「～なら、すれば」、否定形、動詞の現在連体形 第9～10回 第5課 「～ですねえ」、動詞の過去連体形、?変則活用 第11～12回 第6課 「～して(?!?)～」、尊敬形、未来連体形、不可能形 第13～14回 第7課 経験の表現、「～している(?!?)」、?変則活用 第15回 中間テスト 第16～18回 第8課 中間テスト返却・解説、「～している(?!?!?)」「～だから～」、約束表現 第19～21回 第9課 婉曲・前提表現、「～してもよい」、?変則活用 第22～24回 第10課 意思・推量、「～なものですから」「～ねばならない」 | | | |

第25～27回 第11課 「～しましょうか?」「～してみる」、可能/不可能
第28～30回 第12課 「～する/した/しそうだ」「しようと思う」、禁止表現

【授業及び学習の方法】

この科目は基本的に対面授業を行う。一部の授業回では遠隔授業を行う。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性がある。

韓国語Ⅰで習得した基礎文法の上に立って、更に表現をふやす。各活用など新たな文法事項を学ぶ。挨拶を聞き取って対応する練習や、学んだ基礎文法を用いて、ないし応用し、表現する力を訓練する。

常に口を動かし（発音・発話練習）、手を動かして（正しいスペルで書き、正しく活用させる練習）学んでもらうので、能動的な姿勢で授業に臨むことが求められる。

【自学自習のアドバイス】

授業時間中に中間テストを含むテストを行い、クラスの理解度を確認しながら進歩を進める。当然ながらクラスの大半が理解できていることを確認し、クラスの大半にとって適切な速度で進歩を進める（予復習を怠るごく一部の学生に進歩を合わせるのではない）。小テストの前は事前に時間を取って、テスト準備を行うこと。

教科書・参考書等

テキストは全クラス共通の指定テキストを使用する。今年度の「韓国語Ⅰ」での使用テキストの後続テキストである李潤玉ほか『韓国語の世界へ—初中級編—』（朝日出版社）を使用する。大学生協で購入すること。この授業ではまだ辞書を使用しない。

オフィスアワー 各担当教員が授業時間前後の休み時間に対応する。担当教員が非常勤講師の場合、10分休みでは対応できないような長い相談は、前の週に申し出て、授業前後の時間の都合をうかがい、約束しておくことが望ましい。専任教員（宮島）の場合は研究室（南7号館3階から南4号館3階へ移転予定）で対応し、水4をオフィスアワーとするが、会議で不在にする場合も多いので、事前に約束すること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

各自、発音練習に教材に付属の音声資料（WEB）を有効に活用すること。

| | | | |
|---|------------------------------------|--|--|
| ナンバリングコード B2KOR-abxG-10-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 046206) 韓国語Ⅱ (6) Korean II Korean II | 科目区分 外国語科目 | 時間割 2023年度 後期水2, 金4 | 対象年次 1～ |
| | 水準 学士:基礎科目 分野 韓国語 | 提供部局 : 大教センター DPコード : abx | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし |
| | 授業形態 講義 | 単位数 2 | |
| 担当教員名 谷崎 美津子 | 関連授業科目 | | |
| | 履修推奨科目 | | |
| 学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間) | | | |
| 授業の概要 韓国語Ⅱの各クラスはいずれも同内容である。前期に韓国語Ⅰを履修した人を対象とする。引き続き、平易な構文でかつ実際の日常で使用される頻度の高い表現を通じて、基礎的な文法事項を学んでいく。 | | | |
| 授業の目的 前期に韓国語と固有の文字(ハングル)の基本的特徴を理解した初学者が、更に、発音と文法について学習を進める。鼻音化等の発音変化に対する理解を深め、発音の訓練をする。文法的には最も基本の活用から、連体形、変則活用へと学び進める。基本的な単語を覚え、単語数を増やす。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| 韓国語Ⅰの既習者が、基本的な表現や文法事項を更に学び進め、学んだ表現を用いて、あるいは応用させることによって、少しずつ簡単な内容の意思疎通ができる。基本的な構文による平易な内容について、初級後半期から中級に入っていける程度の韓国語能力を養成し、終了時にハングル能力検定4級程度の能力を獲得できる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」および「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) | | | |
| 成績評価の方法と基準 宿題、授業中に行う小テスト、中間試験、期末試験を総合し決定する。香川大学の全学的な評価基準に基づき、全体の3分の2以上の出席がない場合は不可となり、中間テストと期末テストを主とする総合評価で100点満点のうち60点以上で合格となる。 | | | |
| 成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| 【授業計画】 今年度の前期「韓国語Ⅰ」使用した教科書の後続テキストを使用し学ぶ。第1回(初回)は、オリエンテーション、および前期内容の復習(第1課)を学習する。第2回以降は、テキスト第2課以降に進み、前期の学習内容の先の新たな内容を学習していく。「するつもりです」「してください」「してもいいですか」などの多様な表現や、基本活用の定着のうえに多様な変則活用を学ぶ。 テキストに沿って順番に学び進め、学期の中頃に中間テストを行い、学期の最後の授業までにテキスト最終課(第12課)を学び終える。 クラスの大半の学生の理解度にあわせて進度は調節されるが、標準的な進度の一例は以下のとおりである。 第1～2回 第1課 2つの丁寧形 ??体と???体 第3～4回 第2課 「～するつもりです」「～して(?)～」「～でしょう？」 第5～6回 第3課 「～だけれど～」「～してあげる/くれる」、形容詞の現在連体形 第7～8回 第4課 「～なら、すれば」、否定形、動詞の現在連体形 第9～10回 第5課 「～ですnee」、動詞の過去連体形、?変則活用 第11～12回 第6課 「～して(?!?)～」、尊敬形、未来連体形、不可能形 第13～14回 第7課 経験の表現、「～している(?!?)」、?変則活用 第15回 中間テスト 第16～18回 第8課 中間テスト返却・解説、「～している(?!?!?)」「～だから～」、約束表現 第19～21回 第9課 婉曲・前提表現、「～してもよい」、?変則活用 第22～24回 第10課 意思・推量、「～なものですから」「～ねばならない」 | | | |

第25～27回 第11課 「～しましょうか?」「～してみる」、可能/不可能
第28～30回 第12課 「～する/した/しそうだ」「しようと思う」、禁止表現

【授業及び学習の方法】

この科目は基本的に対面授業を行う。一部の授業回では遠隔授業を行う。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性がある。

韓国語Ⅰで習得した基礎文法の上に立って、更に表現をふやす。各活用など新たな文法事項を学ぶ。挨拶を聞き取って対応する練習や、学んだ基礎文法を用いて、ないし応用し、表現する力を訓練する。

常に口を動かし（発音・発話練習）、手を動かして（正しいスペルで書き、正しく活用させる練習）学んでもらうので、能動的な姿勢で授業に臨むことが求められる。

【自学自習のアドバイス】

授業時間中に中間テストを含むテストを行い、クラスの理解度を確認しながら進歩を進める。当然ながらクラスの大半が理解できていることを確認し、クラスの大半にとって適切な速度で進歩を進める（予復習を怠るごく一部の学生に進歩を合わせるのではない）。小テストの前は事前に時間を取って、テスト準備を行うこと。

教科書・参考書等

テキストは全クラス共通の指定テキストを使用する。今年度の「韓国語Ⅰ」での使用テキストの後続テキストである李潤玉ほか『韓国語の世界へ—初中級編—』（朝日出版社）を使用する。大学生協で購入すること。この授業ではまだ辞書を使用しない。

オフィスアワー 各担当教員が授業時間前後の休み時間に対応する。担当教員が非常勤講師の場合、10分休みでは対応できないような長い相談は、前の週に申し出て、授業前後の時間の都合をうかがい、約束しておくことが望ましい。専任教員（宮島）の場合は研究室（南7号館3階から南4号館3階へ移転予定）で対応し、水4をオフィスアワーとするが、会議で不在にする場合も多いので、事前に約束すること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

各自、発音練習に教材に付属の音声資料（WEB）を有効に活用すること。

| | | | |
|--|-----------------------|----------------------------|---------------------------------|
| ナンバリングコード B2KOR-abxG-10-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 046207) 韓国語Ⅱ (7) Korean II Korean II | 科目区分 外国語科目 | 時間割 2023年度 後期水2, 金4 | 対象年次 1～ |
| | 水準 学士: 基礎科目 分野 韓国語 | 提供部局: 大教センター DPコード: abx | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし |
| | 授業形態 講義 | 単位数 2 | |
| 担当教員名 宮島 美花 | 関連授業科目 履修推奨科目 | | |
| 学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間) | | | |
| 授業の概要 韓国語Ⅱの各クラスはいずれも同内容である。前期に韓国語Ⅰを履修した人を対象とする。引き続き、平易な構文でかつ実際の日常で使用される頻度の高い表現を通じて、基礎的な文法事項を学んでいく。 | | | |
| 授業の目的 前期に韓国語と固有の文字(ハングル)の基本的特徴を理解した初学者が、更に、発音と文法について学習を進める。鼻音化等の発音変化に対する理解を深め、発音の訓練をする。文法的には最も基本の活用から、連体形、変則活用へと学び進める。基本的な単語を覚え、単語数を増やす。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| 韓国語Ⅰの既習者が、基本的な表現や文法事項を更に学び進め、学んだ表現を用いて、あるいは応用させることによって、少しずつ簡単な内容の意思疎通ができる。基本的な構文による平易な内容について、初級後半期から中級に入っていける程度の韓国語能力を養成し、終了時にハングル能力検定4級程度の能力を獲得できる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」および「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) | | | |
| 成績評価の方法と基準 宿題、授業中に行う小テスト、中間試験、期末試験を総合し決定する。香川大学の全学的な評価基準に基づき、全体の3分の2以上の出席がない場合は不可となり、中間テストと期末テストを主とする総合評価で100点満点のうち60点以上で合格となる。 | | | |
| 成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| 【授業計画】 今年度の前期「韓国語Ⅰ」使用した教科書の後続テキストを使用し学ぶ。第1回(初回)は、オリエンテーション、および前期内容の復習(第1課)を学習する。第2回以降は、テキスト第2課以降に進み、前期の学習内容の先の新たな内容を学習していく。「するつもりです」「してください」「してもいいですか」などの多様な表現や、基本活用の定着のうえに多様な変則活用を学ぶ。 テキストに沿って順番に学び進め、学期の中頃に中間テストを行い、学期の最後の授業までにテキスト最終課(第12課)を学び終える。 クラスの大半の学生の理解度にあわせて進度は調節されるが、標準的な進度の一例は以下のとおりである。 第1～2回 第1課 2つの丁寧形 ??体と???体 第3～4回 第2課 「～するつもりです」「～して(?)～」「～でしょう?」 第5～6回 第3課 「～だけれど～」「～してあげる/くれる」、形容詞の現在連体形 第7～8回 第4課 「～なら、すれば」、否定形、動詞の現在連体形 第9～10回 第5課 「～ですnee」、動詞の過去連体形、?変則活用 第11～12回 第6課 「～して(?/??)～」、尊敬形、未来連体形、不可能形 第13～14回 第7課 経験の表現、「～している(? ??)」、?変則活用 第15回 中間テスト 第16～18回 第8課 中間テスト返却・解説、「～している(?/? ??)」「～だから～」、約束表現 第19～21回 第9課 婉曲・前提表現、「～してもよい」、?変則活用 第22～24回 第10課 意思・推量、「～なものですから」「～ねばならない」 | | | |

第25～27回 第11課 「～しましょうか?」「～してみる」、可能/不可能
第28～30回 第12課 「～する/した/しそうだ」「しようと思う」、禁止表現

【授業及び学習の方法】

この科目は基本的に対面授業を行う。一部の授業回では遠隔授業を行う。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性がある。

韓国語Ⅰで習得した基礎文法の上に立って、更に表現をふやす。各活用など新たな文法事項を学ぶ。挨拶を聞き取って対応する練習や、学んだ基礎文法を用いて、ないし応用し、表現する力を訓練する。

常に口を動かし（発音・発話練習）、手を動かして（正しいスペルで書き、正しく活用させる練習）学んでもらうので、能動的な姿勢で授業に臨むことが求められる。

【自学自習のアドバイス】

授業時間中に中間テストを含むテストを行い、クラスの理解度を確認しながら進歩を進める。当然ながらクラスの大半が理解できていることを確認し、クラスの大半にとって適切な速度で進歩を進める（予復習を怠るごく一部の学生に進歩を合わせるのではない）。小テストの前は事前に時間を取って、テスト準備を行うこと。

教科書・参考書等

テキストは全クラス共通の指定テキストを使用する。今年度の「韓国語Ⅰ」での使用テキストの後続テキストである李潤玉ほか『韓国語の世界へ—初中級編—』（朝日出版社）を使用する。大学生協で購入すること。この授業ではまだ辞書を使用しない。

オフィスアワー 各担当教員が授業時間前後の休み時間に対応する。担当教員が非常勤講師の場合、10分休みでは対応できないような長い相談は、前の週に申し出て、授業前後の時間の都合をうかがい、約束しておくことが望ましい。専任教員（宮島）の場合は研究室（南7号館3階から南4号館3階へ移転予定）で対応し、水4をオフィスアワーとするが、会議で不在にする場合も多いので、事前に約束すること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

各自、発音練習に教材に付属の音声資料（WEB）を有効に活用すること。

| | | | | |
|---|------------------------------------|--|--|--|
| ナンバリングコード B2KOR-abxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:046301) 韓国語Ⅲ(1) Korean III Korean III | 科目区分 外国語科目 | 時間割 2023年度 前期月2 | 対象年次 2～ | |
| | 水準 学士:基礎科目 分野 韓国語 | 提供部局 : 大教センター DPコード : abx | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし | |
| | 授業形態 講義 | 単位数 1 | | |
| 担当教員名 谷崎 美津子 | 関連授業科目 履修推奨科目 | | | |
| 学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習(準備学習 15時間 + 事後学習 15時間) | | | | |
| 授業の概要 韓国語Ⅰ・Ⅱを履修した人を対象とする。韓国語Ⅰ・Ⅱで学んだ韓国語の基礎を活かし、更に、その基礎の上に立って、より進んだ文法や表現を学習する。 | | | | |
| 授業の目的 韓国語Ⅰ・Ⅱで習得した韓国語の基礎知識を用いて、読み、書き、聞き取り、話す力から成る総合的な韓国語力、特に、読み、書く力を向上させる。 日常生活に必要な会話能力・文法知識を養成し、更に基礎文法を用いて応用できることを目的とする。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| ハングル能力検定試験4級～3級レベルを到達目標とする。 読み、書き、聞き取り、話す、のそれぞれで、同上レベルの実力を持つことができる。 日常的に使用される簡単な文章を読んで理解できる。 (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」および「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 | | | | |
| 成績評価の方法と基準 平常点(レポート・課題など)、授業中に行うテスト(小テスト・中間テスト)、期末試験を総合し決定する。 香川大学の全学的な評価基準に基づき、全体の3分の2以上の出席がない場合は不可となり、中間テストや期末テストを主とする総合評価で100点満点のうち60点以上で合格となる。 | | | | |
| 成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。 | | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | | |
| 【授業計画】 韓国語Ⅰ・Ⅱの学習内容を踏まえた、ハングル能力検定試験4級～3級レベルの読解、作文、および、韓国語Ⅰ・Ⅱで学ばなかった中級レベルの文法や発音規則などを学ぶ。 クラスの大半の学生の理解度にあわせて進度は調節されるが、標準的な進度の一例は以下のとおりである。 第1回 オリエンテーション、韓国語Ⅰ・Ⅱでの学習内容を用いた読解・作文 第2～4回 「? : . . . く、. . . に、. . . ように」など、<目的・程度>の表現を中心に、中級文法・表現 第5～7回 「(?)?? : . . . しつつ、. . . しながら」など、<並列>の表現を中心に、中級文法・表現 第8回 中間テスト 第9回 中間テスト返却と振り返り 第10～11回 「??? : . . . じゃないですか」など、<確認・念押し>の表現を中心に、中級文法・表現 第12～13回 「(?)???? : . . . しますね、. . . しますか?」など、<意志>の表現を中心に、中級文法・表現 第14～15回 「(?)? ????? : . . . するつもりだ、. . . する考えだ」などの表現を中心に、中級文法・表現 第16回 期末試験 | | | | |

自学自習をうながすため、各回の学習に応じて課題を出す。

【授業及び学習の方法】

この科目は基本的に対面授業を行う。一部の授業回では遠隔授業を行う場合がある。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性がある。

【自学自習のアドバイス】

授業においても、自学自習においても、口を動かし（発音・発話練習）、手を動かして（正しいスペルで書き、正しく活用させる練習）、学ぶことが肝要である。従って、能動的な姿勢で授業に臨むことが求められる。

教科書・参考書等

初回授業で指示する。

辞書についても授業内の案内に従うこと。

オフィスアワー 授業後の休み時間に対応する。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業のレベルとして「韓国語Ⅰ」「韓国語Ⅱ」の単位を取得済みの学生（＝「韓国語Ⅰ」「韓国語Ⅱ」の内容は習得済み）を対象とした授業を行う。

| | | | |
|---|------------------------------------|--|--|
| ナンバリングコード B2KOR-abxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 046302) 韓国語Ⅲ (2) Korean III Korean III | 科目区分 外国語科目 | 時間割 2023年度 前期木3 | 対象年次 2～ |
| | 水準 学士:基礎科目 分野 韓国語 | 提供部局 : 大教センター DPコード : abx | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし |
| | 授業形態 講義 | 単位数 1 | |
| 担当教員名 谷崎 美津子 | 関連授業科目 | | |
| | 履修推奨科目 | | |
| 学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習 15時間 + 事後学習 15時間) | | | |
| 授業の概要 韓国語Ⅰ・Ⅱを履修した人を対象とする。韓国語Ⅰ・Ⅱで学んだ韓国語の基礎を活かし、更に、その基礎の上に立って、より進んだ文法や表現を学習する。 | | | |
| 授業の目的 韓国語Ⅰ・Ⅱで習得した韓国語の基礎知識を用いて、読み、書き、聞き取り、話す力から成る総合的な韓国語力、特に、読み、書く力を向上させる。 日常生活に必要な会話能力・文法知識を養成し、更に基礎文法を用いて応用できることを目的とする。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| ハングル能力検定試験4級～3級レベルを到達目標とする。 読み、書き、聞き取り、話す、のそれぞれで、同上レベルの実力を持つことができる。 日常的に使用される簡単な文章を読んで理解できる。 (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」および「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 平常点 (レポート・課題など)、授業中に行うテスト (小テスト・中間テスト)、期末試験を総合し決定する。 香川大学の全学的な評価基準に基づき、全体の3分の2以上の出席がない場合は不可となり、中間テストや期末テストを主とする総合評価で100点満点のうち60点以上で合格となる。 | | | |
| 成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| 【授業計画】 韓国語Ⅰ・Ⅱの学習内容を踏まえた、ハングル能力検定試験4級～3級レベルの読解、作文、および、韓国語Ⅰ・Ⅱで学ばなかった中級レベルの文法や発音規則などを学ぶ。 クラスの大半の学生の理解度にあわせて進度は調節されるが、標準的な進度の一例は以下のとおりである。 第1回 オリエンテーション、韓国語Ⅰ・Ⅱでの学習内容を用いた読解・作文 第2～4回 「? : . . . く、. . . に、. . . ように」など、<目的・程度>の表現を中心に、中級文法・表現 第5～7回 「(?)?? : . . . しつつ、. . . しながら」など、<並列>の表現を中心に、中級文法・表現 第8回 中間テスト 第9回 中間テスト返却と振り返り 第10～11回 「??? : . . . じゃないですか」など、<確認・念押し>の表現を中心に、中級文法・表現 第12～13回 「(?)???? : . . . しますね、. . . しますか?」など、<意志>の表現を中心に、中級文法・表現 第14～15回 「(?)? ????? : . . . するつもりだ、. . . する考えだ」などの表現を中心に、中級文法・表現 第16回 期末試験 | | | |

自学自習をうながすため、各回の学習に応じて課題を出す。

【授業及び学習の方法】

この科目は基本的に対面授業を行う。一部の授業回では遠隔授業を行う場合がある。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性がある。

【自学自習のアドバイス】

授業においても、自学自習においても、口を動かし（発音・発話練習）、手を動かして（正しいスペルで書き、正しく活用させる練習）、学ぶことが肝要である。従って、能動的な姿勢で授業に臨むことが求められる。

教科書・参考書等

初回授業で指示する。

辞書についても授業内の案内に従うこと。

オフィスアワー 授業後の休み時間に対応する。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業のレベルとして「韓国語Ⅰ」「韓国語Ⅱ」の単位を取得済みの学生（＝「韓国語Ⅰ」「韓国語Ⅱ」の内容は習得済み）を対象とした授業を行う。

| | | | |
|---|----------------------|--------------------------|---------------------------------|
| ナンバリングコード B2KOR-abxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:046401) 韓国語会話Ⅲ(1) Korean Ⅲ Korean Ⅲ | 科目区分 外国語科目 | 時間割 2023年度 前期月2 | 対象年次 2～ |
| | 水準 学士:基礎科目 分野 韓国語 | 提供部局:大教センター DPコード:abx | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし |
| | 授業形態 講義 | 単位数 1 | |
| 担当教員名 宮島 美花, 平 水晶 | 関連授業科目 | | |
| | 履修推奨科目 | | |
| 学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習(準備学習 15時間 + 事後学習 15時間) | | | |
| 授業の概要 韓国語Ⅰ・Ⅱを履修した人を対象とした、韓国語会話の授業である。韓国語の慣用句、ことわざ、四字熟語を通じて韓国の文化及び韓国人の考え方について理解を深める。韓国人が良く使う表現を用いて、より自然な話し方を身につけるとともに、長文を読んだり、それについて韓国語で考えを作文し、発話・発表する。毎回授業の後、3回ほど確認の小テストを行う。 | | | |
| 授業の目的 韓国語で、日常生活に必要な、基本的な会話ができるようになることを目的とする。韓国人が良く使う表現を用いて、より自然な話し方を身につける。長文を読み、それについて韓国語で意見などを言える。それらを通じて、韓国の文化及び韓国人の考え方に理解を深める。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| 韓国語で、日常的に必要な、基本的な会話ができる。 レベル的には、ハングル能力検定試験4級～3級、ないし韓国語能力試験2級レベルを到達目標とする。 (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) | | | |
| 成績評価の方法と基準 平常点(課題など)、授業中に行う小テスト・中間テスト、期末試験を総合し決定する。香川大学の全学的な評価基準に基づき、全体の3分の2以上の出席がない場合は不可となり、中間テストや期末テストを主とする総合評価で100点満点のうち60点以上で合格となる。 | | | |
| 成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| 【授業計画】 クラスの大半の学生の理解度にあわせて進度は調節されるが、標準的な進度の一例は以下のとおりである。 第1回 オリエンテーション、韓国語Ⅰ・Ⅱでの学習内容を用いた基礎会話 第2～4回 韓国語の慣用句を用いた自然な話し方 第5～7回 韓国語のことわざを用いた自然な話し方 第8回 中間テスト 第9回 中間テスト返却と振り返り 第10～11回 韓国語の四字熟語を用いた自然な話し方 第12～13回 学習した内容が含まれる長文の読解 第14～15回 学習した内容が含まれる長文の読解に対する意見の発表(作文・発話) 第16回 期末試験 自学自習をうながすため、および、学習内容の理解度を確認するため、授業の後に3回ほど確認の小テストを行う予定である。 | | | |
| 【授業及び学習の方法】 | | | |

この科目は基本的に対面授業を行う。一部の授業回では遠隔授業を行う場合もある。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性がある。

【自学自習のアドバイス】

会話を中心とした授業であるので、受講生の積極的な参加を求める。
そのために教材を用いて予習・復習を重視すること。

教科書・参考書等

初回授業で指示する。
辞書についても授業内の案内に従うこと。

オフィスアワー 授業後の休み時間に対応する。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業のレベルとして、韓国語Ⅰ・Ⅱの単位が取得済み（＝韓国語Ⅰ・Ⅱの内容が習得済みである）である者を対象とした授業を行う。「韓国語会話Ⅲ」は「韓国語会話Ⅲ（１）」と「韓国語会話Ⅲ（２）」のどちらか１つを履修すること（２つを履修することはできない）。

| | | | |
|---|----------------------|---------------------------|---------------------------------|
| ナンバリングコード B2KOR-abxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 046402) 韓国語会話Ⅲ (2) Korean Ⅲ Korean Ⅲ | 科目区分 外国語科目 | 時間割 2023年度 前期木3 | 対象年次 2～ |
| | 水準 学士:基礎科目 分野 韓国語 | 提供部局:大教センター DPコード: abx | 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし |
| | 授業形態 講義 | 単位数 1 | |
| 担当教員名 宮島 美花, 平 水晶 | 関連授業科目 履修推奨科目 | | |
| 学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習(準備学習 15時間 + 事後学習 15時間) | | | |
| 授業の概要 韓国語Ⅰ・Ⅱを履修した人を対象とした、韓国語会話の授業である。韓国語の慣用句、ことわざ、四字熟語を通じて韓国の文化及び韓国人の考え方について理解を深める。韓国人が良く使う表現を用いて、より自然な話し方を身につけるとともに、長文を読んだり、それについて韓国語で考えを作文し、発話・発表する。毎回授業の後、3回ほど確認の小テストを行う。 | | | |
| 授業の目的 韓国語で、日常生活に必要な、基本的な会話ができるようになることを目的とする。韓国人が良く使う表現を用いて、より自然な話し方を身につける。長文を読み、それについて韓国語で意見などを言える。それらを通じて、韓国の文化及び韓国人の考え方理解を深める。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| 韓国語で、日常的に必要な、基本的な会話ができる。 レベル的には、ハングル能力検定試験4級～3級、ないし韓国語能力試験2級レベルを到達目標とする。 (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) | | | |
| 成績評価の方法と基準 平常点(課題など)、授業中に行う小テスト・中間テスト、期末試験を総合し決定する。香川大学の全学的な評価基準に基づき、全体の3分の2以上の出席がない場合は不可となり、中間テストや期末テストを主とする総合評価で100点満点のうち60点以上で合格となる。 | | | |
| 成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。 | | | |
| 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス | | | |
| 【授業計画】 クラスの大半の学生の理解度にあわせて進度は調節されるが、標準的な進度の一例は以下のとおりである。 第1回 オリエンテーション、韓国語Ⅰ・Ⅱでの学習内容を用いた基礎会話 第2～4回 韓国語の慣用句を用いた自然な話し方 第5～7回 韓国語のことわざを用いた自然な話し方 第8回 中間テスト 第9回 中間テスト返却と振り返り 第10～11回 韓国語の四字熟語を用いた自然な話し方 第12～13回 学習した内容が含まれる長文の読解 第14～15回 学習した内容が含まれる長文の読解に対する意見の発表(作文・発話) 第16回 期末試験 自学自習をうながすため、および、学習内容の理解度を確認するため、授業の後に3回ほど確認の小テストを行う予定である。 | | | |
| 【授業及び学習の方法】 | | | |

この科目は基本的に対面授業を行う。一部の授業回では遠隔授業を行う場合もある。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性がある。

【自学自習のアドバイス】

会話を中心とした授業であるので、受講生の積極的な参加を求める。
そのために教材を用いて予習・復習を重視すること。

教科書・参考書等

初回授業で指示する。
辞書についても授業内の案内に従うこと。

オフィスアワー 授業後の休み時間に対応する。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業のレベルとして、韓国語Ⅰ・Ⅱの単位が取得済み（＝韓国語Ⅰ・Ⅱの内容が習得済みである）である者を対象とした授業を行う。「韓国語会話Ⅲ」は「韓国語会話Ⅲ（１）」と「韓国語会話Ⅲ（２）」のどちらか１つを履修すること（２つを履修することはできない）。